

「ゲノム医療提供体制」と 小児がんゲノムコンソーシアム

国立成育医療研究センター

小児がんセンター 小児がんゲノム診療科

加藤元博

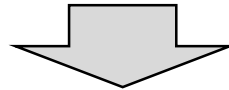
小児がんに対して がんゲノム医療を**診療実装**していくための課題

＜小児がんのゲノム特性＞

- 治療標的の探索だけでなく、診断や予後予測のためのゲノム診断も重要
- 小児に特有のがんが多い
- 生殖細胞系列の遺伝的背景が関与する割合が高い

課題 1) がんゲノム医療中核拠点病院・拠点病院でも、小児がんに対するエキスパートパネルの対応の可能性合いに差がある

課題 2) 成人がんを中心としたゲノム医療提供体制の情報が小児がん診療医に十分に伝わっていない



- ① がんゲノム医療提供体制において小児がんに関する情報・課題を共有し、解決を考えるための枠組みが必要
- ② 小児がんのゲノム医療に関わる人材を効率的に育成する体制が必要
- ③ 小児がん症例に対するEPの質の効率化・均てん化・向上させることが必要

小児がんゲノムコンソーシアム

小児がんに対するゲノム医療の課題に、個々の中核拠点・拠点で自由競争で取り組むよりも、これらの課題に取り組むために施設を超えた連携体制が必要

＝小児がんゲノムコンソーシアム

目的：全ての小児がん患者が、必要なゲノム検査を標準的な診療として受けられる体制を構築する

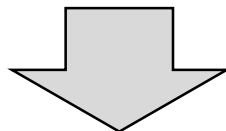
→診療を支援するための

「情報共有・人材育成・EPの効率化」を行う

- がんゲノム医療提供体制においてEPを実施する「がんゲノム医療中核拠点病院・拠点病院」の中で「小児がん拠点病院・中央機関」の小児がん診療関係者で「小児がんゲノムコンソーシアム」の設置に向けたプレミーティングを実施(2020年4月18日)

小児がんゲノムコンソーシアム

- プレミーティングで小児がんゲノムコンソーシアムの設置について合意。



- 全ての小児がん患者が、必要なゲノム検査を標準的な診療として受けられる体制を構築する
 - 主な目的は「診療の現場で実施されるEPの支援」
- まず、すべきこと
 - 構成メンバーを検討する
 - コンソーシアムのMLで情報共有を行う
 - 定期的なWeb会議による「実務者会議」を実施
 - JSPHO/JCCGとの連携
 - 目的に応じたサブグループ会議体制を構築する

① 短期的に（すぐにでも）できること

- 定期（月1回を目安）Web会議を実施する。
 - がんゲノム医療に関する情報共有を行う
 - 各施設のEPの現状を共有する
 - 小児がんは何例ぐらい実施しているか？
 - パネル検査の対象とする基準は？
 - 施設ごとのTATは？
 - 各施設のEPの課題や工夫を共有
 - 小児がん症例の検討で困っていること
 - 工夫したこと
 - 実際の症例を共有して議論する
 - 若手にも参加してもらい、人材育成につなげる
 - 検討した内容は資料に残す

② 中期的に（1年以内ぐらいに）めざすこと

- コンソーシアム参加施設で実施した小児がん症例のEPレポートのデータベース化
 - 遺伝子ごとのコメントをプールして定型文として利用できるようにする
 - 検索できるシステムづくり
- コンサルト体制の整備
 - 施設で判断に迷った症例をコンソーシアムで相談
 - 小児科医／小児外科医に加え、遺伝科や病理、放射線科など他分野の専門医にも相談できる枠組み（当面は報酬なし→中期的には研究費で？）
 - 情報授受の仕組みも含めて、方法を議論していく

③ 長期的な視点で議論していくこと

- 小児がん症例のコンサルトの報酬化
 - 病院の収益を減らさない枠組み作り→加算？
- がんゲノム医療中核拠点・拠点・連携 に加わることができていない小児がん診療施設
 - 「小児がん拠点病院でない小児病院」をカバーする体制が必要
 - JCCG中央診断の枠組みを利用。結果的に、JCCG中央診断を継続できる基盤として応用する。
- 「小児がんに最適化したパネル」が実装した際に運用可能な体制を作っておく
- 小児がん診療に関わる医師に広く教育を届ける
 - JSPHO・JCCGと連携

概要図

小児がんゲノムコンソーシアム

・全ての小児がん患者が、必要なゲノム検査を標準的な診療として受けられる体制を構築する
→診療を支援するための「情報共有・人材育成・EPの効率化」を行う

